



詳しい内容は、市ホームページで読むことができます。

### 不知火町で「忠霊塔」落成式 熊本地震で損壊した塔を2年半ぶりに再建



遺族会などが参加して落成式が行われました

12/8 熊本地震で被災して倒れた忠霊塔の再建を祝う落成式が、不知火町の龍燈公園で行われました。この忠霊塔は、明治10年の西南の役から昭和13年の日中戦争までの戦没者を悼んで昭和16年に建てられたもので、その後太平洋戦争などの戦没者も合わせて祀られています。毎年4月2日には、遺族会を中心に清掃活動や参拝などが行われます。参加した山川考一さん(75)＝不知火町＝は「遺族会の人数も減り、再建は半ば諦めていたが、補助金のおかげもありこのように再建できてとてもうれしい」と喜んでいました。

### 「小川GGエコーズ」7周年ふれあいコンサート 温かな歌声を多彩なゲストとともに

12/8 男声合唱団「小川GGエコーズ」によるコンサートが海東ふれあいセンター(小川町)で開催されました。これは地元で活動している同合唱団が日ごろの練習の成果を披露するとともに、元氣と勇氣と喜びを届けようと毎年開いているもの。この日は、3部構成で「アルプス一万尺」や「ソーラン節」などの楽しい歌、4組のゲストによるバトン演技・女声合唱・フルート演奏、「おおシャンゼリゼ」などの懐かしい歌といった盛りだくさんの内容で、訪れた100人を超える満員の観客も笑顔で楽しんでいました。



「私は誰でしょう?」と自身の仕事を歌にして自己紹介

### 青海小の児童が黒砂糖づくり 地域の人々と伝統を知る



自分たちで作った「棒巻き」をくわえて「はい、ポーズ」

12/9 青海小の児童と保護者、地域住民など約150人が、伝統的な黒砂糖作りを体験しました。これは江戸時代から昭和30年代までサトウキビ栽培が盛んだった郡浦地区の歴史を受け継いでいこうと30年以上続けられているもの。児童たちは、学校の農園で育てたサトウキビの搾り汁を旧大岳小にある専用の大釜で煮詰め、出来上がった黒砂糖をサトウキビの茎に巻き付けた「棒巻き」を作りました。6年の西村行騎君は「曲がったサトウキビを使うほうがたくさん巻き付けやすい」と笑顔で話しました。

### 「第13回宇城市伝統文化芸能まつり」 次世代へ受け継がれる伝統芸能

12/2 市内の伝統芸能団体が一堂に会して芸能を披露する「宇城市伝統文化芸能まつり」がラポートで開催されました。市教委の主催。第1部では、市内で活動する10団体が、神楽や太鼓、獅子舞など昔から受け継がれている伝統芸能を、由来や見どころなどの説明を交えて披露。大人に混じり懸命に演じる子どもたちも多く、会場からは温かな拍手が送られていました。第2部では、市外から2団体が出演。人吉市鬼木町の郷土芸能「鬼木臼太鼓踊り」と阿蘇郡高森町の「高森にわか」に観客たちは見入っていました。



豊川豊年餅つき踊り保存会(豊川小学校6年生)

### 「災害時における技術支援に関する協定」締結 災害に強いまちづくりのために



協定を締結した守田憲史市長(左)と脇雅史会長(右)

12/5 市は熊本地震で被災した井戸の調査や今後の対策についての提言などを受けるための協定を、(一社)全国さく井協会＝東京都＝と結びました。これは、災害時に井戸施設の早期復旧を目指すために締結したもので、同協会が自治体と支援協定を結ぶのは全国で2例目です。市が計画中の防災井戸7本と管理する水道用の井戸25本などについて、技術的な支援を受けます。市役所で行われた締結調印式で、守田憲史市長は「専門家との協定は心強い」とあいさつ。脇雅史会長は「災害に強い井戸づくりに貢献できれば」と述べました。

### 豊野中で「カッキークッキー」づくり 地元の特産品「干し柿」をおいしく食べよう

12/7 豊野中で1年生38人が干し柿を使ったクッキー作りに挑戦しました。これは、ふるさとの歴史などを学ぶ授業の中で、地元の特産物である干し柿をもっと多くの人に食べてもらおうと取り組んだもの。生徒たちが干し柿を使ったスイーツや料理を考案した中で、一番人気があった「カッキークッキー」をこの日は調理。授業参観に訪れていた保護者と共に味わい、地域の人たちにも振る舞われました。レシピを考案した前田鈴音さんは「簡単に作れるレシピを考えました。地域の人たちにもおいしく食べてもらいたい」と話しました。



干し柿がクッキーに

生地を伸ばして